令和８(2026)年度 第２回下都賀地区教育相談連絡会研修会を開催しました



日 時 ： 令和8(2026)年10月1日(木)
会 場 ： 小山市桑市民交流センター マルベリー館
参加者：・下都賀地区各市町教育相談機関の関係者
・下都賀地区各市町教育支援センター担当者
・下都賀地区各市町教育委員会教育相談関係担当者
・県南健康福祉センター福祉指導課・健康支援課担当者
・各市保健福祉部・福祉事務所福祉部家庭相談員
・栃木県教育委員会SSW
・下都賀地区小・中・義務教育学校教育相談担当者又は不登校児童生徒に関わる教職員

1 研修内容について

○ 目的　下都賀地区管内の教育相談機関、教育支援センター及び小・中・義務教育学校の連携を密にし、児童生徒の健全育成を図る。

○ 内容　(1) 教育支援センター等からの実践報告　壬生町教育支援センター「ひばり」
(2) 講話『子どもの社会的自立を支える教育相談の在り方』
～心理的理解に基づく支援と学校・家庭・関係機関の連携～
講師　県スクールカウンセラースーパーバイザー 渡邊 文子 様
(3) 班別協議
テーマ「児童生徒の社会的自立を目指した適切な支援の在り方について、それぞれの立場でできること」

2 本研修で学んだこと(参加者が記入した〈研修の振り返り〉から抜粋)

○ 教育支援センターひばりの発表では、BPS モデルによるより的確なアセスメントが勉強になりました。また、チーム支援の必要性、重要性は日頃から感じています。人権感覚、適切な指導の基準「スタンダード」の資料もいただき熟読しました。

○ 教育支援センター「ひばり」からの実践発表では「生徒指導提要」の改訂から重層的支援体制についての確認があり、児童・生徒指導と教育相談の連携の大切さがわかりました。特に BPS モデルによるアセスメントを通して子どもの困り感の本質に迫ることの重要性を再認識すると共に、「背景にある様々な要因の結果として不登校という状態が生じていることを考えると、アプローチが向かう先は不登校ではない。要因に手を伸ばすのだ」という言葉が心に残りました。

○ 教育相談担当として、教職員に何か確認シートのようなものがあればなと感じていた矢先、アセスメント・支援シートのご紹介があり、とてもありがたかった。教員の表情や言葉で、生徒・保護者との関係が悪化する場合がある。教員がいろいろなことを学ばなければと心から感じ、また担当としてアンテナを高く、タイミングよく情報や手立てを提供できるようしたいと思った。

○ 不登校児童生徒の対応は長期にわたることが多いため、当事者1人で抱え込まないようにしていきたい。講話の中にあった事例や研究協議で話した内容からも、不登校児童生徒に関わる人をなるべく多くすることの必要性を改めて感じた。

○ 教育支援センターの実践では、目先のことで精一杯になりがちです。将来の社会的自立まで、視野に入れた支援にはなりにくいです。今回の講話では、その子なりの自立、身につけさせたい力、そのための支援を考える機会になりました。学習、受験、進学が実現するだけでなく、長期的なゴールの一つとして意識しなければならないことなので、お話を聞けてよかったです。

○ 発達課題は老年になっても続くものであることを認識しました。目の前の不登校の生徒が将来どうなっていくのか、学校での対策だけでは限界があることを知り、いろいろな相談機関、自治体職員、地域の方、医療機関、など、細くても多くのパイプを生徒に示すことができたら、先生のおっしゃった「自立とは、依存先を増やすこと」になっていけるのだと思います。

○ 担任の私にできることは、様々な人、相談機関と連携すること、保護者を始め、学校、相談機関、医療機関との連携が大切だと思いました。まずは学校全体と保護者との連携をしっかりして、学級の雰囲気をいつ登校しても過ごしやすいような環境に整えておくことを心がけようと思いました。

○ 「自立とは依存先を増やすこと」について、本当にそうだと関わる児童や保護者を見て感じます。本校でも毎回教育相談週間前の放送で、「自分で助けてと言えたり、書けたりすると、手を差し伸べてくれる人は必ずいますよ」と話しています。

○ 日頃から、自立を意識して対応してきました。渡邊先生のお話をお聞きして、「今までのやり方でいいんだ」と気持ちが軽くなったと同時に、改めて自立を目標とすることへの視野が広がり、やってあげられることが増え、先が明るくなりました。

○ 子どもたちに風を吹かせてあげられる教員という立場で、どんなことができるのか、さまざまな角度から考えていきたいと思いました。私は、社会的自立とは、自分のことを自分でよく分かり、自分とうまく付き合いながら、周りとうまく繋がっていく方法を分かっていくことかな、と考えました。

○ 登校することだけを目標とするのではなく、将来、社会の中で自分らしく生活していくための社会的自立を見据えて支援することが大切だと学びました。教育相談担当として、児童生徒一人一人の気持ちや困り感を丁寧に捉え、本人の思いや自己決定を尊重しながら、小さな「できた」を積み重ねていけるような関わりを心掛けたいと思います。



